

平成 17 年 8 月 11 日

佐々木吉三郎さん関係の皆様：

永宮 正治

今月上旬の 8 月 3 日から丸 4 日間、ハンガリーのブダペストに行
って参りました。4 日間のうち丸 2 日間は朝から晩まで国際関連の
委員会が開催されましたので、それに出席するのが主目的でした。
また、この委員会は国際会議の会場を借りて行なわれ、国際会議で
も講演をしましたので、日程的にはかなり詰まった旅行でした。

しかし、その合間を縫って、僅か数時間ですが、とても感動的な
経験をいたしました。このことをお話しするために、このメモを書
いております。

佐々木吉三郎 (Sasaki Kichisaburo) さんがハンガリーに柔道を
教えに行かれたことは、昔から聞いておりました。ところが、吉三
郎さんが旧制 7 年制の武蔵高等学校の設立者のお一人だったことは、
私もつい最近まで知りませんでした。武蔵学園のホームページを眺
めますと、吉三郎さんのことが詳しく書かれており、これによりま
すと、吉三郎さんは明治 39 年の 1 月から 1 年余りブダペストに滞在
されたことになっております。ちなみに、ブダペストは「ブダ」と
「ペスト」の二つが合併した町です。また、別のホームページでは、
ハンガリーにおいて「DJUDO」という本を書かれ、これが当時評判
になり、英語やドイツ語、フランス語にまで訳されたことが書かれ
ています。さらに、そのドイツ語版を、ベルリンにいたドイツの皇
太子が読まれたようです。皇太子が吉三郎さんに教えを乞いたいと
言い出したために、ドイツが吉三郎さんを招待したことを、昔、佐々
木昭子さんからお聞きしました。武蔵学園のホームページでは、吉
三郎さんは、ハンガリー滞在後の明治 40 年の 3 月から 2 年半、文部
省の命でベルリンに滞在されたことが記録されています。

そんなことで、今回出発する直前に、国際会議の主催者のお一人

である Tamas Csorgo さんという方に、吉三郎さんの書かれた「DJUDO」の本をブダペストで見ることができないだろうかという E メールをいたしました。Csorgo さんは早速いくつかの場所を当たってくれました。幸いなことに、私が昔から親しくしていたハンガリーの物理学者の Zimanyi さんという方の奥さんが国立図書館の方を知っていて、この本を本格的に探す努力をして下さいました。もう百年も前に出版された本なので、そんな本が見つかるかどうか、ハンガリーの方々も疑っていたのですが、何と驚いたことに、数日後にそれが見つかったのです。そのことを知ったのは、私がハンガリーに着いた直後のことでした。

国立図書館は、ハンガリー王宮のそばにあり、古い本が保存されている書庫は、一般の人が閲覧できないことになっているとのことでした。偶然、そこに勤めておられる Istvan Moldovan という方がこの本に興味を持って下さったようで、私が Zimanyi 夫人と一緒に Moldovan 氏を訪れた時には、オフィスにその本が用意されていました。

早速、本を眺めました。百数十ページの薄い本ですが、非常に感銘深い本でした。丹念に各ページを眺めたあと、いくつかのページの写真を撮りました。このメモのうしろに、その写真のいくつかを添付します。その折に世話をして下さいました Zimanyi 夫人と Moldovan 氏の写真も付けておきました。お二人とも、百年も前に日本人がブダペストに来て柔道を教えたのかと、私と同じように感動されたようです。

本の内容は、ハンガリー語なので私にも分かりません。少なくとも目次だけを英語にしてあげようと、Zimanyi 夫人は言って下さっています。数週間すれば送って下さるかもしれません。一番印象深かったのは、数々の写真です。私のアルバムには一枚だけ吉三郎さんの写真が残っており、今回はそれを持ってハンガリーに出かけたのですが、それよりもずっと若い頃の、筋肉隆々の吉三郎さんが写っています。髭も印象的です。また、吉三郎さんが担いで持っていつ

たと聞いていた畳も写っています。当時のブダペストの建物も写っており、また、体の動きを示す工夫を凝らした写真もみられます。

私がこの本に熱中して見入っている間に、Moldovan 氏と Zimanyi 夫人はハンガリー語で何かを熱心に喋っておられました。内容は分からなかったのですが、どうも、私をハンガリー柔道協会の方に会わせたらどうか、という相談をしていたようです。そして、この本を眺め終えた頃に、

「明日は時間をとることができないか？」

と聞かれました。あいにく、その翌日は今回の出張の主目的の国際委員会が開催されることになっており、私がお委員長をしているので抜けることはできないことを伝えざるを得ませんでした。本心は、吉三郎さんのことをもっと知ることの方が興味があったのですが、委員会の方を抜ける訳に行かず、残念だなと思いました。

そうこうしているうちに「委員会は何時から？」と聞かれ、「10時からです」と答えると、「それでは朝の9時から10時までは空いてますね」と言われました。「はい」と答えると、何と、その1時間だけ柔道協会の方が委員会の会場まで来て下さることになりました。こうして、その翌日に柔道協会の方にお会いすることになったのです。

1時間だけお会いすることになった方は、Ozsvar Andras さんというハンガリー柔道協会（オブダイ柔道協会と呼ぶらしい）の会長さんで、オリンピックで銅メダルまでとった方でした。朝9時に、柔道協会のカメラマンを連れて委員会の会場までやってきて下さいました。この方は片言の日本語を喋ることができたのですが、英語は話せないので、私がEメールを出したCsorgoさんが同席してくれました。

そのときの写真も添付します。この方は、1957年生まれらしく、48歳とのことでした。日本の山下選手と何度も対戦したらしく、山下選手をととても尊敬していると、繰り返し言っていました。さらに、全く予想もしなかったのですが、そのAndrasさんが、3つのプレゼ

ントを持ってきて下さったのです。一つは私をハンガリー柔道協会の「名誉師範」に任命するという賞状です。写真にそれを添付しますが、そこには「佐々木吉三郎の孫として、この称号を与える」と記載されています。正治（ショウジ）は「Sodzsi」と書かれています。この賞状と共に、カメラマンの方が写真を撮って下さいました。正直言って、この予想外の贈り物にはビックリいたしました。

もう二つのプレゼントは、ハンガリー柔道協会が出す「黒帯」とハンガリーにおける柔道の本です。私は、柔道は高等学校のときに必須科目で習った以外は経験したことがなく、黒帯を頂いて気恥ずかしい思いでした。

一方、いただいた本も興味深いものでした。Andras さんが説明してくれましたが、この本には佐々木吉三郎さんのことが書かれています。当時、吉三郎さんは 60 人のお弟子さんを育てたとのこと。しかし、その後のハンガリーでは、柔道が「危険スポーツ」として禁止された時期があったようです。その時期は、柔道をしているということだけで逮捕されたと言っておられました。そんなこともあり、吉三郎さんがハンガリーに行かれて 20 年経った頃は、60 人のうち 4 人しか残っていなかったそうです。そんなことが書かれています。その 4 人の内の 1 人がアメリカから帰って 1000 ドルの寄付をし、もう一人の方が多大な努力をして、1928 年にハンガリーの柔道協会が設立されたとのこと。そして、その 10 年後には 2 段の人も生まれました。Andras さんは 1957 年生まれの方ですので、この協会が設立されてかなりの時間が経った後に、協会に入会されたこととなります。

山下選手と競った Andras さんは、今もがっちりとした体の方で、5 段と言っておられました。ことのほか吉三郎さんのことに興味を抱いておられ、私が国立図書館で見た吉三郎さんの本を何とか見たい、本の写真を是非送ってほしい、と言われました。また、たまたま持ち合わせていた吉三郎さんの写真（私のアルバムからコピーしたもの）も是非ほしいと言われ、この写真や武蔵学園のホームページの

プリントも持って帰られました。Andras さんも、吉三郎さんの「DJUDO」という本については、全く知らなかったか、あるいは見ることが許されなかったか、今まで読んだことがなかったと言っておられました。

その前日、国立図書館からの帰り道、Zimanyi 夫人は「吉三郎さんの本は全て電子化されるかもしれない」と言っておられました。国立図書館でこの本を探して下さった職員の Moldovan さんが、この本に興味を持たれたからです。そうなれば、どなたでも本の全部を見ることができますので、実現しましたら皆様にまたお知らせします。ただし、これは確約された話ではありません。

さらに、私が泊まっていたホテルに、委員会で一緒のドイツの研究所の所長さんが泊まっておられました。毎朝、彼と一緒にタクシーで会場まで行っていたので、車の中で何となく吉三郎さんの話をしたら、すごく興味を持ってくれました。そして、ドイツでもその本のドイツ語訳を探してみると言ってくれました。ひょっとしたら見つかるかもしれません。

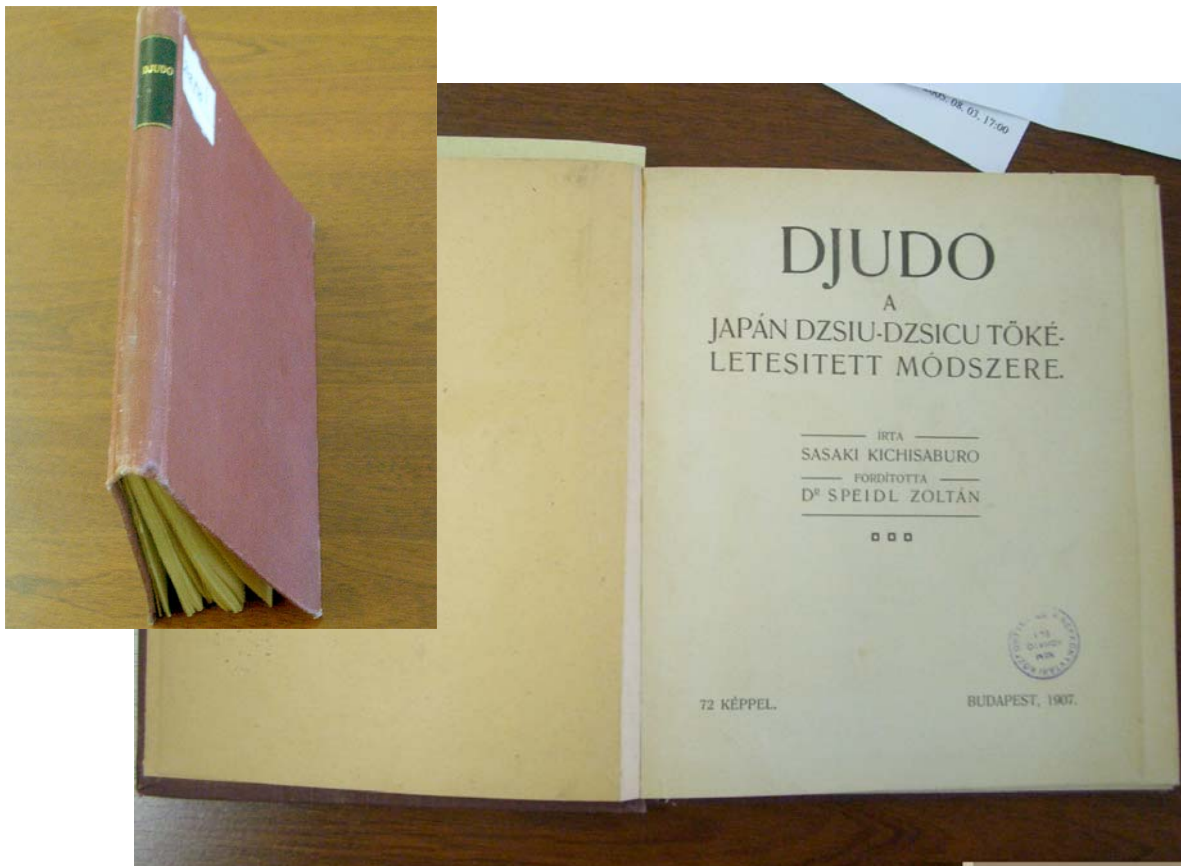
今回は、会議会議の連続で、町の中を散歩する時間ありませんでした。それでも、最後の日に、ほんの数時間ですが、ブダとペストの間を流れるドナウ川で船に乗り、夕食を食べながら一人で町の風景を眺める機会を作ることができました。何百年も前に建てられた美しい数々の建物を眺めていると、吉三郎さんも百年前に同じ建物を眺めながらこのブダペストで生活しておられたのかなと思い、今回の思いがけない数々の出来事と重ね合わせて、ブダペストの最後の夜は感慨深いものとなりました。



国立図書館に連れて行って下さった
Zimanyi 夫人（右）と Zimanyi 博士（左）。
Zimanyi 博士はハンガリー学士院会員。



本を探して下さった
国立図書館の職員の
Moldovan 氏。

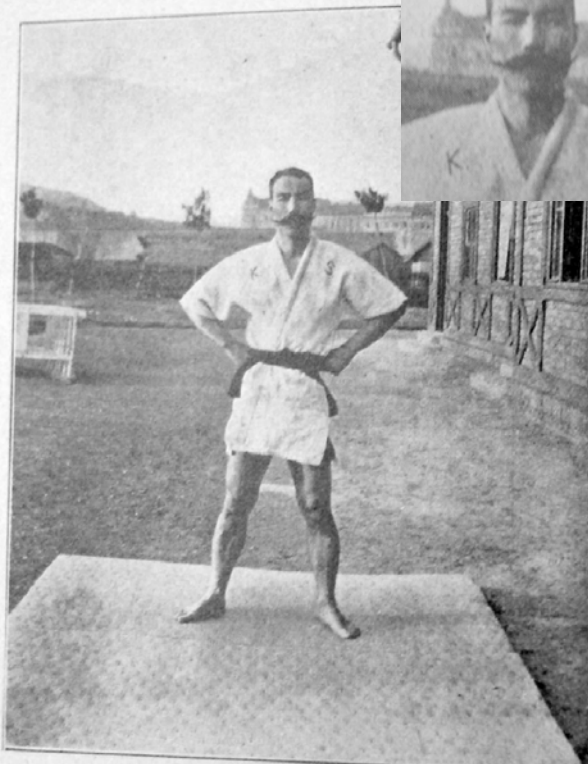


本の外観と第1 ページ目



2. Jigoro Kano, a Judo alapítója.

A kabát felső részét, tudniillik azt a részt, a melyik a derék
 ö részét fedi, fehér pamuttal kereszt

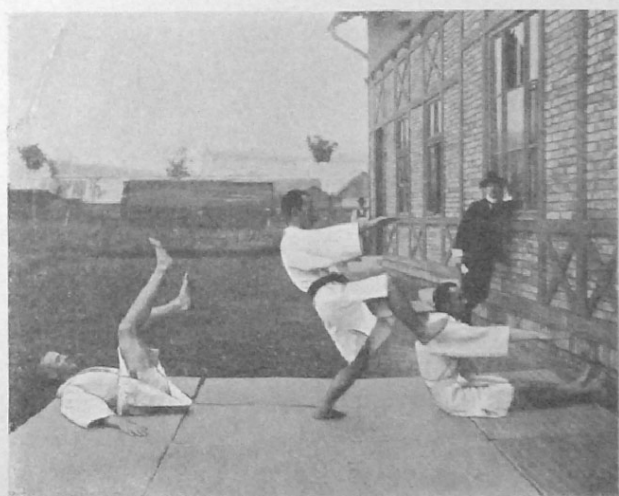


4. Sasaki Kichisaburo gyakorló-ruhában.

Kano Jigoro (上) と
 Sasaki Kichisaburo (右)

1. A kéz és a kar szerepe a leesésnél.

Esésnél a kezünkre s a karunkra kell leereszkednünk: ezt soha, egy pillanatra sem szabad szem elől tévesztenünk. Ha hátunkra esünk, nyújtott karunknak hosszában, lefelé fordított tenyérrel a gyékényhez kell csapódnia. Ha karunk be van hajlítva, ízületünk könnyen megsérülhet. Karunknak a gyékényhez való csapásánál a test és a kar között meglehetősen nagy szögnek kell lennie. De ha túlságosan nagy a szög és megközelíti az egyenes szöveget, a



5. Az esés gyakorlása.

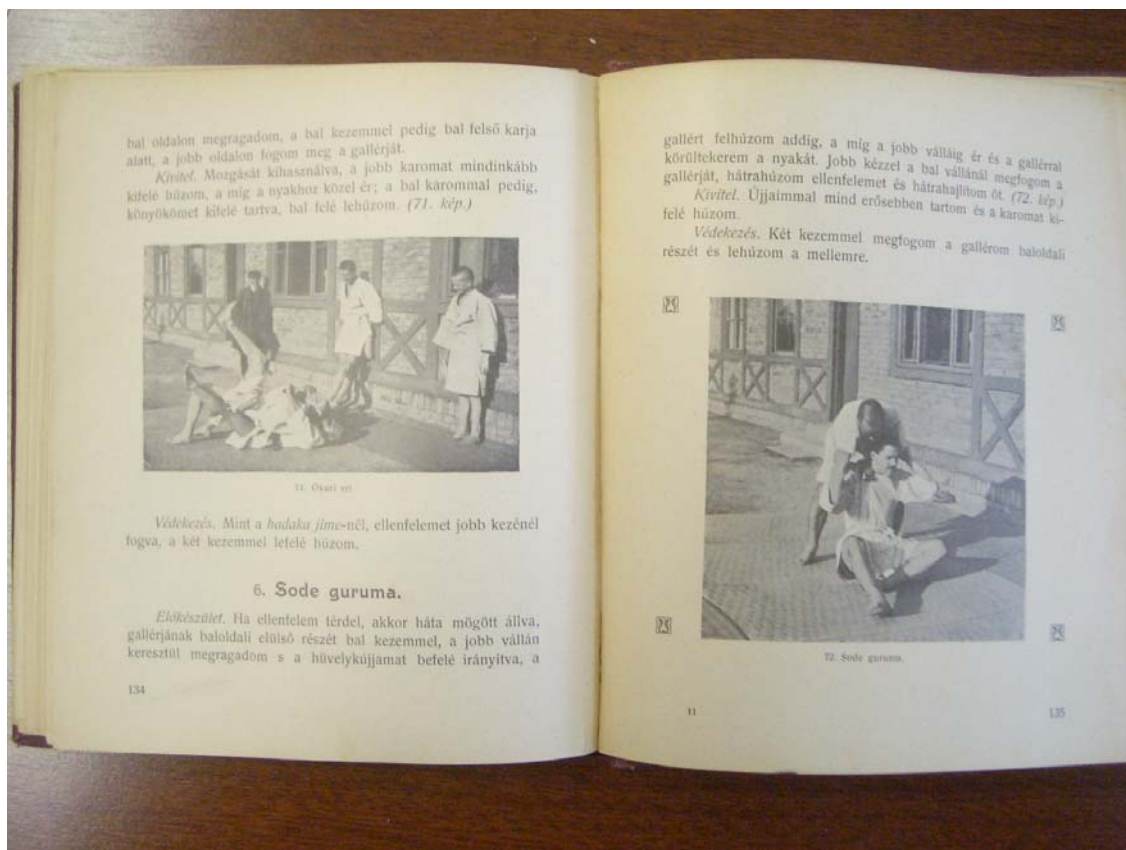
4. Tai otoshi.

Előkészület: Ha ellenfelemet jobb felé előre húzom és ha
 ő erre meghajlik, akkor bal lábamat megfelelő távolságra.

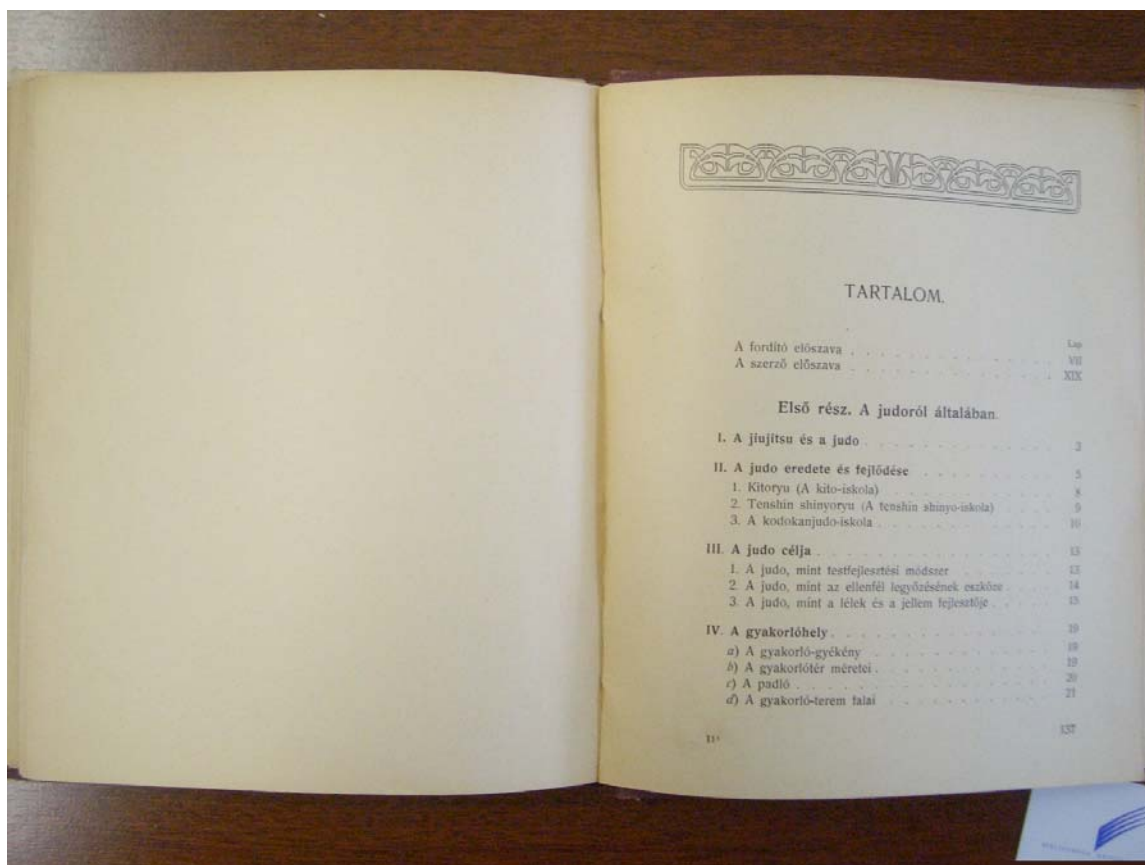


12. Sukui nage.

種々の技の紹介



本の一部（上）と目次（下）





ハンガリー柔道協会会長 **Andras** さんと一緒に。右の写真の左端は、最初に E メールした **Csorgo** さん。



柔道協会から頂いた「名誉師範」称号（左）、黒帯（下）と柔道の本（下）。賞状には、佐々木吉三郎師範の孫としてこの称号を与える、と記載されている。



本の中には、歴史としての吉三郎さんのこと（赤線）や、その後の発展が記されている。

dezték az első női viadalbajnokságot. természetesen azóta az olimpiakon is indulnak.
1907-ben Szemere Miklós kultuszminiszter meghívására Sasaki Kichisaburo judomester érkezett a BEAC sporttelepére, Budapestre. 60 fővel kezdte meg tanfolyamát, de csak 4 fő maradt meg. A mester meg is jegyezte, hogy Magyarországon a fiatalok talán soha nem fogják megtanulni a judót, mert nincs bennük elég türelem és kitartás. A sikertelen kísérlet után 1928-ban Vincze Tibor rendszeres edzéseket tartott hazánkban. Tanítványai 1933-ban Bécsben már nemzetközi versenyen is szerepeltek. Az 1938. évi frankfurti övvizsgán Vincze Tibor II. danból és Purman János I. danból sikeres vizsgát tett. 1938-41 között több külföldi mester látogat hazánkba. 1946-ban Vincze és Purman hozott létre judo (magyar nevén: eselgáncs) szakosztályt. 1952-ben megalakult az első országos eselgáncs szövetség. 1954-től a Testnevelési Főiskolán megindult az edzőképzés. 1958-ban tagjai lettünk az Európai Judo Uniónak, és így megkezdődhetett a nemzetközi részvételünk. Az első felnőtt Európa Bajnoki helyezésünket Dávid Tamás szerezte Essenben 1962-ben. 1966 őszén a válogatott keret repülőszerecsétlenséget szenvedett Pozsonyban, és ez nagyban visszavetette a sportág eredményességét. A szakmai munkát ekkortól már a Kodokán Intézetből hivatalosan kiküldött szakemberek segítették. A mai napig is évenként visszatérnek továbbképzést tartani.



この写真は、私のアルバム
からとった佐々木吉三郎さん。
何歳頃かは不明。